

先週、各学級から毎週出されるお便りに次のような文面が記されていたと思います。

子ども達の持ち物について

最近、子ども達のランドセルや補助バッグに付ける飾りが大きかったり、数が多かったりするのが気になります。付ける飾りは、大きすぎないもの（にぎりこぶしぐらいの大きさ）で1つにするようお願いします。

また、学習に不必要なものやお金を持ってきている子ども達も見受けられるようです。ご家庭におかれましてもお子さんの持ち物についてご確認と管理をよろしくお願い致します。

何卒、ご理解の上、ご協力をお願い致します。また、このことに関して、もしよかったら、下の「感じたことから」をご一読のうえ、皆様のお考えと照らし合わせていただければ幸いです。

感じたことから

○「学校文化」と「娯楽的文化」

世間一般に、学校現場での指導がやり難い状況がみられています。その要因は、いろいろあると思いますが、ここでは「子ども達が身を置く“場”」から日頃思っていることを書いてみます。

「子ども達が身を置く“場”」と「そこでの在り方」には、次のようなものが挙げられます。

- ・学校という“場”において、そこで大切にしている「学校文化」を享受して行動しようとする在り方
- ・家に帰り、テレビやスマホ等の世界といった“場”において、情報や娯楽、ゲーム等の「娯楽的文化」に興じてしまう在り方

そして、子どもたちは、その間で彷徨っているように思います。というのは、この「学校文化」と「娯楽的文化」は、相互には相容れない部分が多いためです。例えば、次のようなものです。

学 校 文 化	娯 楽 的 文 化
学校で“命の大切さ”を感じ取らせる指導をしても、	家に帰ってスマホを手に取りゲームをすれば、次々に相手を痛めつけたり命を奪ったりするシミュレーションに楽しさを感じることもある
人権について学校で学んでみても、	テレビを見れば、平気で人を笑ったり馬鹿にした様子が見られる。大人はその見極めがある程度つくが、子どもたちにとっては、“人の失敗を笑うこと、人を傷つけて喜んでること”などが強く印象に残ることもある
学校で、友達への誹謗中傷の愚かさと有害性について指導をしても、	ライン上での友達との関係性の中でいつの間にか他者への誹謗中傷の言葉を並べてしまっていることがある

この両者についてですが、子どもたちにとっては、商業的に脚色された「娯楽的文化」が、魅力的なものになりがちです。そのため、子どもたちは、学校では表面上「学校文化」を守るように努力しますが、一面では「娯楽的文化」を楽しみたいし、楽しもうとする使い分けが生じているようにも思います。その結果として、「学校文化」を内面化できず、規範意識が喪失しているようにも感じられます。中には「娯楽的文化」の要素を学校に持ち込もうとする場合もあるようです。そうすると秩序は乱れ、集中した学びも、他者を思いやる気持ちもおさざりになってしまいがちです。利用する場と正しい利用の仕方のもとに「娯楽的文化」は大いに楽しむべきでしょう。しかし、その良し悪しを判断できる基本的な内面性や知識を培わないといけません。子どもたちの指導はなかなか難しい時代です。

上記の「子どもたちの持ち物」についても、「わざわざ規制しなくても…」という内容かもしれませんが、次第にエスカレートしてバックにたくさんの飾り、大きな飾りをつける様子が見られるようになってきています。そして、こうした遊びの要素が強いものが、学びにおける自他の集中を妨げることもあるのです。まさしく「娯楽的文化」の学校への押し寄せです。こうした細かな面の規制が緩まると、「娯楽的文化」に「学校文化」が浸食され、秩序を無くした集団の空気を生み出してしまいます。こうした空気感をもつ集団は、お互いが疑心暗鬼になり、思い切り自分の力を発揮することができないばかりか、他者への誹謗中傷の言葉を平気で発してしまうようになりがちです。

では、そうした中で何が必要かということですが、「学校文化」のよさを実感させることではないかと思います。学校においては「娯楽的文化」の要素を制限した中で、“手を差し伸べる集団のよさ” “わかることの楽しさ” “自分の力を精一杯に発揮する心地よさ” “他者と力を合わせる充実感” 等、を感じ取らせることが「学校文化」への引力となるように思います。その一つとして、10/26(日)の運動会とそのための練習が位置づけられればと思っています。とても難しいですが、そうした活動や授業、集団づくりをめざして一歩ずつ進んでいければと思っています。

